



(1) 2040年に向けた高等教育の
グランドデザイン

情報技術などの発展による「第4次産業革命」や、本格的な人口減少社会の到来など、社会の大きな変化が予想される中で、高等教育機関が求められた役割を果たせるよう、概ね2040年頃を見据えたこれからの時代の高等教育の将来構想について文部科学省中央教育審議会が2018年にとりまとめたもの。2040年とは、グランドデザインが取りまとめられた2018年に誕生した子どもが浪人・留年・休学などをせずに進級・進学した場合に、大学を卒業する年度に相当する。

(2) 数理・データサイエンス・
AI教育プログラム

デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要な力をすべての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を構築する必要があるとの背景から、内閣府は「AI戦略2019」を発表し、2025年度にリテラシーレベルで年間約50万人、応用基礎レベルで年間25万人などを育成する目標を掲げている。これに向けて、大学・高等専門学校が数理データサイエンス教育に関する正規課程教育のうち一定の条件を満たした優れた教育プログラムを政府が認定し応援する。

周南公立大学は、2021年に、「学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、適切に理解し活用する基礎的な能力を育成する」リテラシーレベルの認定を取得。2022年にはその上の「実践的な能力を育成する」応用基礎レベルにも認定された。

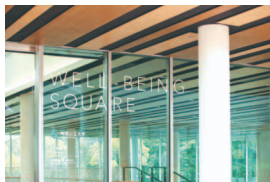
(3) コミュニティ・ベースド・ラーニング (CBL)

地域連携のもと地域の課題を発見し、解決策を見出すことに挑戦する実践的な学びのこと。CBLにより下記の能力が身につくと期待される。1 実践的な経験をもとにしたキャリア形成。2 コミュニティとの連携とネットワーク形成。3 学際的な学習の促進。4 自己肯定感や使命感の醸成。

「地域貢献型大学としての周南公立大学の特色は、コミュニティ・ベースド・ラーニング(CBL)に強く表れています。これは地域の課題発見と解決に挑戦する実践的な学びのことです。「地域は学問の道場」という高田学長の考えのもと、学生たちは地域に出て課題解決の達成感や失敗経験などを学んでいきます。キャリア教育の面でも、地域は格好の学びの場となります。周南地域の企業との協働による「地域共創型イン



新しい教室とともに学生、教職員、地域の方々の交流を育む
ウェルビーイングスクエアを備えた新校舎が2024年春に完成



Well-being square



学生の経営するカフェ「Tierra」



開放感のある commons

成します。スポーツ健康科学科は長寿社会における健康を支える人材を育成するもので、医学的な見地から学べるよう、医師の教員を配置しています。福祉学科では、福祉とは今の状態よりも少しでも良くなることと捉え、地域の課題解決を促進する人材を育成します。経済経営学部は、従来の経済学部の内容に経営やアントレプレナー育成などの学びも加え、国際的な視野を持ちながら地域社会の問題を解決できる人材を育成します。「本学の教育目標の1つである、ウェルビーイングへの貢献が期待できる学部学科を揃えました。ウェルビーイングとは、身体的、精神的、経済的な様々な課題を解決し、みなが幸福でいられることと考えています。本学の3学部5学科ではそれぞれが専門性を高めることと同時に、横断的な教育を行うことを重視しています。地域社会の課題は複合的で解のない課題であることが多く、横断的な学びで複数の視点から考える力を身につけてほしいからです」

地域で学ぶプログラムは
良好な就職状況にも寄与

地域貢献型大学としての周南公立大学の特色は、コミュニティ・ベースド・ラーニング(CBL)に強く表れています。これは地域の課題発見と解決に挑戦する実践的な学びのことです。「地域は学問の道場」という高田学長の考えのもと、学生たちは地域に出て課題解決の達成感や失敗経験などを学んでいきます。キャリア教育の面でも、地域は格好の学びの場となります。周南地域の企業との協働による「地域共創型イン

「高田学長」
専門の枠を超えた教育プログラム
の例としては、データサイエンス教育が挙げられます。「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は21年にリテラシーレベルの第1回認定を受け、翌22年には応用基礎レベルの認定を受けました。学部学科に関わらず全ての学生がリテラシーレベルの能力を身につけた上、情報科学部の学生はさらに応用基礎レベルの能力を身につけていきます。ほかに、総合教養教育として、EQ(心の知能指数)教育、デザインシンキング、システムシンキング、やまぐち学、周南学など多彩なものが用意されています。
地域で学ぶプログラムは、良好な就職状況にも寄与する。卒業生は、就職先が幅広い。就職先は、地元企業だけでなく、全国にまで広がっている。就職先は、地元企業だけでなく、全国にまで広がっている。就職先は、地元企業だけでなく、全国にまで広がっている。



たか たかかし
高田隆学長
広島大学教授、理事・副学長(社会産学連携担当)、国際口腔顎顔面病理学会会長、日本臨床口腔病理学会理事長などを歴任。2019年に徳山大学学長に就任し、2022年より周南公立大学学長・理事長。

〒745-8566 山口県周南市学園台843-4-2 学生支援部入試課 TEL 0834-28-5302 https://www.shunan-u.ac.jp/

周南公立大学

山口県東部地域における知と地の拠点として約50年の歴史を持つ徳山大学が、2022年度より周南公立大学として新たなスタートを切りました。地域に愛され、地域に信頼される「地域に輝く大学」をめざす姿とし、先進的な大学改革を展開して注目を集めています。2024年度には情報科学部、人間健康科学部、経済経営学部への改組を行ったほか、地域住民にも開かれた新棟を建設するなど、教育・研究環境もさらに充実しています。こうした中、2023年度の一般選抜の志願倍率は20.0倍で、全国の国立大学のトップになりました。また、日本経済新聞社が調査する「大学の地域貢献度調査ランキング」では、定員2000人以下の大学の中で2回連続で全国1位になるなど、地方の公立大学ながら全国から注目を集める大学として発展しています。

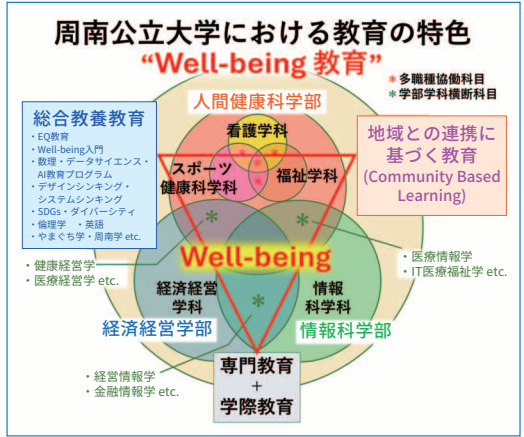
社会のウェルビーイングに資する 3学部5学科体制がスタート 地域貢献大学の新しいモデル構築へ

公立大学となり 地域貢献大学としての使命が明確に

周南公立大学の前身となる徳山大学は、当時の徳山市(現周南市)の高村坂彦市長が「日本一の理想都市」をめざす街づくりの中核として大学を誘致したことをきっかけに誕生した、公設民営大学の先駆けです。1971年の開学以来、約50年の長きに渡り一貫して山口県東部地域における産学官連携の重要な役割を担ってきました。その志を継承し、少子高齢化や人口減少などの地域が抱える諸課題を解決すべく、地域の持続的発展と価値創造のための「成長エンジン」となる公立大学として2022年に誕生したのが周南公立大学です。24年には3学部5学科となる新体制のスタートや5階建ての新棟の供用開始など、教育・研究環境がさらに充実してきています。「公立大学として生まれ変わったことで、地域のための大学という本学の使命がより明確になりました。周南地域の発展に資することはもちろん、今後全国各地で求められてい

ウェルビーイング を追求する 3学部5学科の 新体制

文部科学省は18年に「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(1)として今後の社会で必要とされる人材像や、高等教育のあるべき姿などをとりまとめました。そこでは、予測が難しい時代においては、幅広い知識・理解や技能を文理横断的に身につけ、論理的な思考力をもって社会を改善できる人材が求められるとされています。また、そのような人材育成のために、大学では何を教えたかという大学側目線ではなく、どんなことを学び社会でどう生かすことができるかという学修者目線に立った教育へ転換することを求めています。この求めにいち早く対応したのが、周南公立大学の新しい3学部5学科体制です。高田学長は言います。「新しい学部学科を準備するにあたり、まずは地域でどんな人材を必要としているのかを知るため、周南地域の企業や団体など100社を超える事業者へアンケート調査を行い



ました。また、現在本学で学ぶ学生が卒業し、社会の中核を担うであろう2040年頃の社会予測としては、政府が提示しているグランドデザインを参考に議論を重ね、情報科学部、人間健康科学部、経済経営学部からなる3学部5学科体制とすることを決めたのです」
情報科学部では、Society5.0時代に向けて文理融合・学部横断的な教育を行い、ビジネス力、データサイエンス力、情報エンジニア力という3つの力を身につけていきます。人間健康科学部は、看護学科、スポーツ健康科学科、福祉学科の3学科からなります。看護学科は、高度医療、地域医療、在宅医療など複雑・多様化する医療体制の中で、最適な看護を実践できる看護職者を養